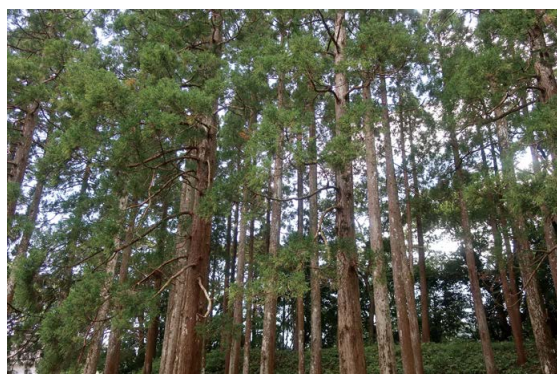


# 全国漁業信用基金協会 宮崎支所

## 1. 宮崎県の紹介

宮崎県は、黒潮の影響により年間を通して暖かく、快晴の日数は全国1位である一方、平均年間降水量も全国1位です。日南海岸があることから南国海洋県のイメージが強いのと思いますが、県面積の76%を森林



飢肥（おび）杉

が占め、日本最南端の天然スキー場を有し、県南西部にあるえびの高原では氷点下20.2度の九州最低気温の記録を持っています。

面積は約7,735km<sup>2</sup>、九州地方では鹿児島県に次いで2番目、全国では14番目の広さ、人口は1,081,654人、全国では36番目です。

古くから農林水産業が盛んであり、スギ素材の生産量は31年連続日本一、キュウリや柑橘類も全国生産量1位です。



## 2. 宮崎県の水産業

水産業においては約3百年前、紀州藩から伝わったとされるカツオ一本釣りの漁獲量が日本一で、飢肥林業と絡み合って発展してきた歴史と信仰、風習、食文化まで一体となった循環が形成されていることから『造船材を産出した飢肥林業と結びつく「日南かつお一本釣り漁業」』として、令和3年2月「日本農業遺産」に認定されています。また、完全養殖によるシロチョウザメの生



日南のカツオ船

産量も全国1位で、採れた卵は国産唯一の本格熟成キャビアとして「宮崎キャビア1983」と命名され、ANAファーストクラスにも採用されました。このほか、中型まき網、船曳網、定置網などの網漁業、ブリやカンパチ、ウナギの養殖漁業も盛んです。

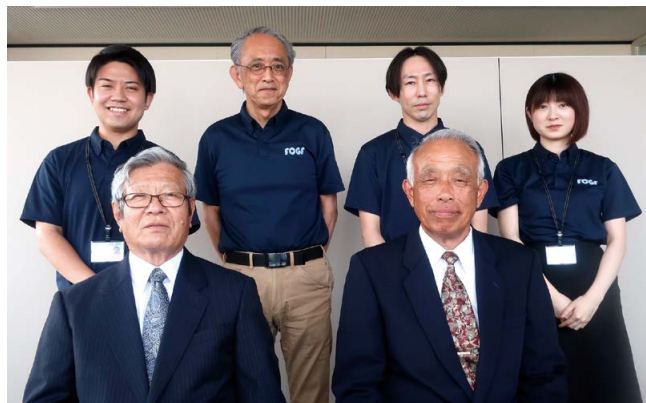
県民性としては、良くも悪しくものんびり屋で、時間にルーズでありながらも寛容に受け止めるおおらかさがあり、「日向時間」という言葉と共に「いもがらぼくと（芋がらで作った木刀）」という言葉で表現されています。ただし、宮崎支所においてはこの言葉に当てはまっている職員はおりません。



シロチョウザメ

### 3. 宮崎支所の概要（令和4年3月末現在）

- 住 所：宮崎市港2丁目6番地
- 担当理事：日高光明
- 担当監事：甲斐俊光
- 会員数：132名
- 出資金残高：954百万円
- 保証残高：4,570百万円
- 求償権残高：195百万円
- 職員数：4名



### 4. 宮崎支所の取組み

近年、魚価安、経費高騰、後継者不足などに起因する漁家経営の低迷により保証が伸び悩み、加えて低金利政策の長期化により基金運用収入が大きく目減りし赤字経営が続いてきましたが、合併による基金の効率運用と経営体質の見直しにより、ここ3か年はどうか黒字が出せるところまで回復してきております。

今後においては、結果として漁業近代化資金の保証に特化してしまっている保証の引き受けを、幅広く受け入れられるよう体制整備を行うとともに、保証の広報活動を含めた浜回りの強化に努め、右肩下がりのトレンドを再び上げに転じ恒常的な黒字が計上できるよう、役職員一丸となって改善に取り組んでいく計画です。

この第一段階として、一昨年度に当支所としては初めて系統外の金融機関と契約を結ぶに至り、今まで取引がなかった分野の漁業者から運転資金の問い合わせを受けるなど、徐々に活動が実を結びつつあるところです。

また、ブロック内の他の支所とも連携し事務の効率化に努めるとともに、保証メニューの充実を図り系統

金融機関に対しても保証需要の掘り起こしに努めたいと考えております。

